



TITLE:

平成17年度京都大学図書館機構公開事業開催報告

AUTHOR(S):

CITATION:

平成17年度京都大学図書館機構公開事業開催報告. 静脩 2006, 42(2): 20-20

ISSUE DATE:

2006-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/37788>

RIGHT:

平成17年度京都大学図書館機構公開事業開催報告

メインテーマ:「京都大学の学術情報基盤の未来を考える」

期間:11月15日(火)～12月18日(日)

企画展示会

11月15日(火)～12月18日(日)

展示会テーマ:知識を運ぶメディア

- 京都大学の学術情報散見 -

会場1:百周年時計台記念館展示室

会場2:附属図書館3階展示室

入館者数 5,007名

記念講演会

11月16日(水) 13:00～15:30

講演:

「大学における学術情報の歴史と未来」

土屋 俊(千葉大学附属図書館長)

「京都大学の情報環境のこれから」

松山隆司(情報環境機構長)

「京都大学図書館機構について」

大西有三(図書館機構長)

参加者:105名(ネット視聴者25名)

キャンパス討論会:吉田地区

11月16日(水) 16:00～18:10

「人文・社会科学系、工学系の学術情報の今後を巡って」

司会:森棟公夫(図書館副機構長)(経済)

パネリスト:堀和生教授(経済)「経済学分野の学術情報の現状」、森澤眞輔協議員(工学)

「工学系学術情報の今後を巡って」、田中克己教授(情報)「大学における基盤の学術情報資源整備とは」、水野直樹協議員(人文研)

「人文科学系の学術情報-その特色」

参加者:68名(ネット視聴者13名)

トピック:BNC(バックナンバーセンター雑誌)の重要性。東アジアの電子ジャーナル導入。

キャンパス討論会:北部地区

12月5日(月) 15:30～18:10

「自然科学系の学術情報の今後を巡って」

会場:理学部6号館402教室

基調報告・司会:大西有三(図書館機構長)「京都大学図書館機構について」

パネリスト:谷誠教授(農)「森林利用と環境保

全の両立を図る立場から学術情報の持続的利用を考える」、高橋陽一郎教授(数研)「数学文献を巡る最近の動向」、永井裕子(日本動物学会事務局・NII/SPARC推進室員)「過たず、惑わされず!!オープンアクセス」

三木律子(エルゼビア・ジャパン代表取締役)「学術情報環境の現状と将来-商業出版社の場合-」

参加者:73名(ネット視聴者8名)

トピック:電子ジャーナルに関する現場研究室の経費負担増大感。機関リポジトリ、オープンアクセス。

キャンパス討論会:南部地区

12月15日(木) 16:00～18:30

「バイオメディカル・サイエンスにおける電子ジャーナルの利用実態と今後の展望」

会場:芝蘭会館2階山内ホール

司会:野田亮協議員(医学研究科教授)

パネリスト:武藤誠教授(医)「オンライン出版の発展と問題点(著者・編集者・読者の立場から)」、金子周司教授(薬)「教育現場における電子ジャーナル利用の現状と展望(学生・大学院生教育の立場から)」、松岡雅雄教授(ウイルス研)「研究現場における電子ジャーナル利用の現状と展望(研究者の立場から)」、Natasha Robshaw(BioMedCentral)ビデオ出演、松下茂(サンメディア)「BioMedCentralの設立理念とOpenAccess電子ジャーナルの動向:BMCとOpenAccess誌の日本における状況」、宮入暢子(トムソン)「OpenAccess誌のインパクト・ファクター」

参加者:65名(ネット視聴者5名)

トピック:学術情報基盤を堅固にするための大学のネゴシエーターの必要性。医学・生物系の電子ジャーナルの利用実態(著編者、研究現場、教育現場)。

3地区の討論会への合計参加者数

311名(ネット視聴者51名を含む)